

第 288 回市民医学講座

平成 9 年 3 月 19 日 (水)

仙台市役所 8 階ホール

補聴器の上手な選び方、使い方

仙台市立病院耳鼻咽喉科部長

沖津卓二

1. 己を知り、敵を知る

「上手な選び方、使い方」は「正しい選び方、使い方」によってもたらされる。補聴器を正しく選び、正しく使うには補聴器の特徴を十分に知るとともに自分の難聴についても十分に知ることが重要である。難聴には大きく分けて伝音難聴と感音難聴がある。前者は鼓膜や中耳に原因がある場合に生ずる難聴で、後者は内耳から中枢に至る経路に原因がある場合に生ずる難聴である。この両者が合併しているものを混合難聴という。

これらの難聴の種類によってきこえ方がだいぶ違う。ある言葉をきいた場合、伝音難聴では小さくきこえるだけなので大きくしてきかせると、正常の人と同じようにきこえる。一方、感音難聴のきこえ方はさまざまであるが、一般的には音や言葉がゆがんできこえる。老化に伴う老人性難聴のきこえ方は後者である。老人性難聴では内耳のみならず中枢ならびにこれに至る経路にも機能低下が起こるため、情報量の不足によりことばの了解度が低下する。つまり、老人性難聴では音は比較的良好にきこえるが、言葉がきき取れないことが特徴である。補聴器は基本的には音質調整や最大出力制限などの装置を持った音の増幅器である。したがって、音や言葉を大きくしてやるだけでよくきこえる伝音難聴には最も効果がある。しかし、感音難聴の場合には障害部位、難聴の程度、難聴の型によって効果が異なり、全く無効の場合もある

2. 補聴器の普及をとりまく最近の状況

補聴器は補装具であると同時に医療用具であり、医師の監督下に装用するものである。来るべき高齢化社会に対応すべく、日本耳鼻咽喉科学会は以前から補聴器適合判定医師研修会を行っており平成 5 年 11 月には地域の事情に即応した補聴器の相談・支給・管理体制の整備を中心となっていく補聴器キーパーソンを各都道府県に置いている。また厚生大臣の指定法人「テクノエイド協会」が平成元年から補聴器技能者講習会、平成 5 年から認定補聴器技能者試験を行っており、さらに販売店側は平成 6 年 6 月から「認定補聴器専門店」制度を発足させ適切な販売を目指している。

3. 補聴器を装用するまで

最も合った補聴器を装用するには、これまで述べてきたことから分かるように、耳の診察、詳しい聴力検査が不可欠であり、必ず最初に耳鼻科の診察と検査を受けてほしい。難聴の病理や聴覚生理学の知識なくして補聴器を正しく適合することはできない。販売店から直接購入して宝の持ち腐れになっている場合も多い。上記の専門店では事前に必ず耳鼻科の診察を勧めるはずである。聴力検査のデータに基づいて性能を第一に補聴器の器種を選択するが、耳掛け形、耳穴式などの中から希望する形を選び、試聴してもらう。約 1 週間の試聴後に再調整を行うが、試聴・再調整を平均 2、3 回繰り返して行うことが多い。どうしても効果が無い場合はあきらめてもらう。

4. 補聴器の上手な使い方

初めは静かな所で、短時間使用する。最初からうるさい所で使用すると雑音ばかりがきこえ、補聴器に幻滅することになる。相手にはゆっくり、はっきりと話してもらうことが大切である。慣れてきたら少しずついろいろな場面で使うようにする。基本的には必要な時に使用することでよい。TPO を考えて使うのが上手な使い方といえる。また、補聴器は一台のみという時代ではなく、眼鏡を使い分けるように、性能や形によって複数台を使い分けることも必要であろう。家にいるとき用、外出用、講演会用...、等々。家族をはじめ周囲の人も、補聴器を着けたのだから普通にきこえるはずだとばかりに、健聴者と話すように対応するのはよくない。ゆっくり、はっきりと言葉を区切って話す思いやりが必要である。また、補聴器がうまく活用できるか否かは難聴の程度よりも使用する本人の意欲にかかっていることも事実である。生活上、工作上なんとしてもきこえないと困るという人は上手に使いこなしている人が多い。他人と話す必要がなく、家でぼんやり暮らしているような場合にはうまくいかないことが多い。補聴器を有効に使うためには、周辺機器を利用することも必要である。講演会湯のループ、テレビエイド、おしらせホーンなど、ほかにいろいろな出ているので相談してほしい。

5. 最近の補聴器

東北大学で開発されたクリアトーンをはじめとするデジタル補聴器が種々登場している。どうしても従来型の補聴器が合わない場合には一度試してみるのもよいが、現状では高度難聴には難しい、高価であることなどから一般に普及するまでには至っていない。

6. 宮城県における補聴器の供給体制

成人に関しては、宮城県医師会補聴器適合相談センター、認定補聴器販売店、デジタル補聴器は河北聴覚センターが主に行っている。